

[テーマ]

基準 I-C 自己点検・評価

- (a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

自己点検・評価のための規程として「金城大学短期大学部自己点検・評価室規程（以下、「自己点検・評価室規程」という。）」を有し、組織としては「自己点検・評価室」を整備している。活動としては、自己点検・評価報告書の作成をはじめ、各種アンケート調査、FD 研修会の企画及び実施、公開授業等を日常的に実施している。特に自己点検・評価報告書は、毎年テーマを変えて発刊し、関係各所に配付している。また、これらの活動は全教職員が関与できる体制を整えており、中でも FD 研修会は専任教員に対して原則参加を義務づけ、全学的な教育力向上を図っている。

- (b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

全学的な体制をさらに推進するため、非常勤講師に対しても自己点検・評価活動の重要性を示し、関与を高めていく。

【区分】

基準 I -C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

自己点検・評価活動は、学科・部署単位で日常的に行われているが、全学的な実施体制としては、「自己点検・評価室規程」に基づき「自己点検・評価室」を設置している。

室員は、教員 8 人（幼児教育学科 2 人、美術学科 2 人、ビジネス実務学科 4 人）と事務職員 4 人である（平成 24（2012）年 5 月 1 日現在）。室長は学園の法人本部長（ビジネス実務学科教員を兼任）であり、また教員の中には 3 学科の学科長が全員含まれ、管理運営機関が率先して関わる体制としている。

平成 24（2012）年度の自己点検・評価活動の取組と成果は次のとおりである。

(1) 「自己点検・評価報告書」の作成

4 月に改定された一般財団法人短期大学基準協会の「自己点検・評価報告書作成マニュアル」に従い、平成 23（2011）年度及び平成 24（2012）年度前期における本学の教育活動等について、自己点検・評価報告書を取りまとめた。

【備付資料：No.9】

(2) 「金城大学短期大学部 事業報告書」及び「金城大学短期大学部 事業計画書」等の作成

各年度の教育活動内容を総括するため、平成 22（2010）年度より事業報告書を作成している。また、平成 23（2011）年度より事業計画書も作成し、各部署がそれぞれ PDCA サイクルを有して自己点検・評価活動を進めるようになっていく。平成 24（2012）年度は、15 の部署が事業計画と事業報告を作成した。

【提出資料：No.31・33】

これらは EIS 上で学内公表し、全教職員がいつでも閲覧できる体制としている。また、これとは別に、幼児教育学科では、1 年間の教育活動の記録について、学科専任教員が全員で分担執筆し、「年報」として取りまとめ、関係各所に配付した。【備付資料：No.13】

美術学科では、平成 22（2010）年度に比治山大学短期大学部美術学科との相互評価を実施し、相互評価報告書を作成した。【備付資料：No.10】

(3) 「学生生活満足度調査（卒業アンケート）」の実施

各年度末に、卒業直前の学生に対して、本学における講義や設備から学生生活全般にわたって満足度調査を実施している。平成 23（2011）年度に、当調査の意義・目的・運用方法などを抜本的に見直し、新しく調査票を作成した。また学内 Web 上で実施できる体制を整え、集計作業の効率化を図った。平成 24（2012）年 11 月に、この調査結果を報告書として取りまとめ、自己点検・評価活動を行った。【備付資料：No.24】

また、平成 24（2012）年度の調査実施にあたり、報告書を踏まえ、より回答しやすい調査様式に変更した。

(4) 「学生生活満足度調査（在学生アンケート）」の実施

平成 24 (2012) 年度より、卒業直前の学生だけでなく、1 年次学生に対する満足度調査も実施した。【備付資料：No.20】

(5)「授業に関するアンケート」の実施

このアンケートは各学期終了後、学生による授業評価をもとに、授業の質向上を組織的に図る目的で実施している。平成 24 (2012) 年度は、評価結果に対して、担当の専任教員がコメントを付し、それを結果と合わせて EIS 上で公表した。【備付資料：No.39】

また平成 25 (2013) 年度は、文部科学省「大学改革実行プラン」の方針に基づき、教育の質的転換を促す目的で、質問項目の改定を予定している。

(6)「クラス担任業務の手引き」の作成

本学は開学以来現在に至るまで、クラス担任制で、手づくり教育を実践してきた。しかし、これまでクラス担任業務を見直す機会がなかった。また、近年多様化する学生への対応について、一定の共通理解を持つ必要があるとの判断から、平成 24 (2012) 年度に、このクラス担任校務について、自己点検・評価活動を行った。具体的には、まず業務の現状を調査した。次に本学の教育理念に基づくあり方について検討を加え、最終的にはクラス担任校務に関する手引きとして取りまとめた。【備付資料：No.11】

(7)「短大生調査 2012 年 (JJCSS)」への参画

本学学生の入学以前の背景、本学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観などについて、自己評価資料を取得し、今後の改革に資する目的で、一般財団法人短期大学基準協会が実施する「短大生調査 2012 年 (JJCSS)」に参画した。平成 25 (2013) 年 3 月に結果が届き、「短期大学学生に関する調査研究—平成 24 (2012) 年短大生調査 全体集計結果報告—中間報告書・速報版」に対応する本学の速報版を作成し、平成 25 (2013) 年 3 月 22 日の教授会で報告した。【備付資料：No.21】

(8) FD 研修会の企画及び実施

平成 23 (2011) 年 9 月に「金城大学短期大学部 FD 宣言」を発し、本学ホームページ上で一般公表した。これを受け、平成 24 (2012) 年度は学内 FD 研修会を 6 回企画・実施した。【備付資料：No.43】

専任教員は原則として全員参加を義務づけ、非常勤講師に対しては案内状を送付し、参加を呼びかけている。実施結果の報告は本学ホームページ上で一般公表している。またこれとは別に、平成 24 (2012) 年度に文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善改善・充実体制整備事業（以下、「産業界ニーズ G P」という。）に選定された「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」事業の一環として、教育の質的転換を図る目的で、「授業（大学教育）と産業界をつなぐアクティブラーニング〜クリッカーを用いてのピアインストラクションの紹介〜」というテーマで研修を実施した。【備付資料：No.12】

そのほか、学外団体主催の FD 研修会への参加としては、大学コンソーシアム石川を通じた研修会について、その都度、教職員に周知して参加を呼びかけている。【備付資料：No.43】

(9)「公開授業」の実施

公開授業は、各学科がそれぞれの特徴に合わせて実施した。幼児教育学科では、幼児教育の4領域から2科目を選定して公開した。延べ18人の教員が参観し、実施後に反省会を行なった。美術学科では、外部審査委員も交えて定期的に学生の制作物を審査する「公開オーディション」や「合評会」を全学科に公開している。ビジネス実務学科では、授業に関するアンケートの結果が良好であった2科目の公開授業を平成24(2012)年11月に行った。参観者は延べ15人であり、それぞれコメントを授業実施者にフィードバックした。そのほか、平成24(2012)年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に選定されたことを受け、クリッカーを活用したアクティブラーニング授業の公開を全学的に行った。平成25(2013)年1月に4回実施し、参観者より授業実施者にコメントをフィードバックした。

(10)「教員顕彰制度」の検討

本学教育力の向上・改善を図るため、教育理念に基づく組織的な教育への参画、貢献について、教員評価を行い顕彰する制度の検討を始めた。平成25(2013)年度も引き続き検討を進め、平成26(2014)年度の制度導入を目指している。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

自己点検・評価活動について、専任教員はその重要性を認識しつつあるが、非常勤講師に対しては、現在のところ参加を呼びかける段階にとどまっている。

◇ 基準Ⅰについての特記事項

(1) 以上の基準以外に建学の精神と教育の効果について努力している事項。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現(達成)できない事項。

特になし。